

表1 リスク分析の例

	危害要因	重篤度	頻度	対策方法	優先順
1	石灰帯がうすい時がある。	中	低	決められた曜日に散布するだけでなく、適宜対応。	3
2	1本のほ乳ボトルを複数頭で使い回している。	高	多	各ハッチに専用ほ乳ボトルを用意して使い分ける。	1
3	処理室前にぬかるみやすく、集乳車が汚れる。	高	中	砂利を敷いて整備する。	2

**伝染病対策のための衛生管理**

伝染病対策は、「持ち込まない」、「広げない」、「持ち出さない」の三原則の徹底が重要です。地域内だけでなく農場内においても対策し、発生時は広がりをも最小限に抑えましょう。

**1 リスク分析**  
病原菌の持ち運びは野生動物の他、人の手や長靴、作業機の移動、道具による拡散が考えられます。戸々の農場でリスクを分析して、優先順位の高いものから対策しましょう(表1)。

さらに、エリアごとに道具(糞かき棒や竹箒、ブラシ等)を用意し、人為的な病原体の拡散を防止しましょう。

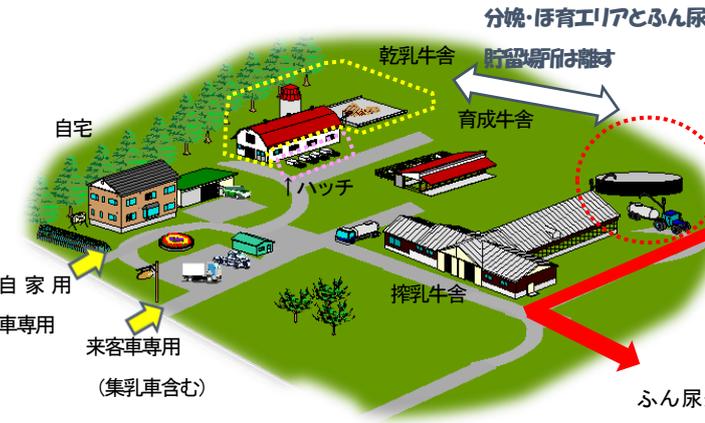


図1 エリア分けと作業動線の確保

**2 農場内のエリアを分ける**  
衛生の重要度が高い順番は、①処理室、②飼料保管場所、③分娩エリア、④ほ育牛エリア、⑤育成牛舎、⑥乾乳牛舎、⑦搾乳牛舎、⑧敷料庫、⑨機械庫、⑩ふん尿貯留場所と考えます。それぞれのエリアで作業が完結するか、移動する際に病原体の持ち運びがないようにします(図1)。

**3 対策方法**

(1) 出入り口の石灰散布  
車両消毒用の石灰帯は、長さ4m・幅3m(大型車両のタイヤが2周できる面積)が目安です。病原体が多含まれるのはふん尿や水たまりなどで、汚れの水分とタイヤに付着した石灰が反応し、強アルカリ性となって消毒されます。

(2) 病原体を広げない  
汚染リスクの高いエリア(ふん尿貯蔵場所)と衛生の重要度が高いエリア(とくに飼料保管場所)が隣合わせで、同じ通路に作業機が行き来する場合や、除糞と敷料散布で作業機を共用場合は病原体を拡散しやすく、伝染病の初発直後から蔓延する可能性が高まります。

とくに、サイロ周辺の廃棄物や通路のぬかるみが汚染源となる場合があります。作業動線や作業方法、環境の変化について再確認しましょう。

(3) 菌の増殖防止  
菌は有機物と水分があると増殖するので、農場内の清掃管理をルーティン化し、乾燥させることが重要です。

また、毎日の清掃作業を無理なく続けるために、牛舎レイアウトの工夫や清掃道具の選択は大切です(図2)。

作業機の揺れやほ場内の段差(タイヤ跡など)があっても刈り取り高を一定に確保できます!



図3 モコンディショナ:通常の部品(右)とオプションのソリ(左)を装着したものの高さを比較

(4) 採草地からの持ち込み防止  
牛の口から入るものは特に衛生面に配慮する必要があり、エサとなる採草地の管理も同様です。  
牧草収穫時に土砂や堆肥の塊、野生動物の糞(シカなど)を拾ってしまおうと、サイレージの不良発酵と病原体混入の原因になってしまいます。モアコンディショナにソリを装着して牧草の高刈りを徹底することで、サイレージへの病原体混入を減らすことができます(図3)。

長靴や清掃道具をいつでも簡単に清掃!



図2 水道配管と洗浄シャワーを牛舎内に複数設置